

# ポーハタン号便り

第一号 平成二十六年五月二十日発行

## 第三回総会報告（概要）

子孫の会総会・講演会・懇親会が五月十一日に法曹会館(東京)にて開催され、左記の新会員方々が紹介されました。

立石斧次郎の兄のご子孫 小花和 平一郎様

小出千之助のご子孫 尾上 満昭様

日高圭三のご子孫 日高 廣様

佐野鼎のご子孫 佐野 祐一様、佐野 良彦様

## 平成二十五年度活動報告

- ・ 三月十七日第二回総会を開催
- ・ 十月五日に関西訪問し関西在住会員の方々との意見交換
- ・ 安池横須賀自然・人文博物館学芸員のミニ講演会を開催
- ・ 会員の皆様の家系図を整備
- ・ 幹事会開催

(三月十六日、五月十六日、七月十日、十月二十六日、十二月十三日、二月二十六日、四月九日)

## 平成二十六年活動計画

- ・ 今秋にミニ講演会を開催予定
- ・ 使節団の故郷訪問検討中

- ・ 使節団の子孫探しを活発化する
- ・ ホームページの更なる整備を行う
- ・ 米国ワシントン海軍工廠の記念公園に遣米使節の記念碑建立を検討する

**役員の改選**（引き続き左記のメンバーで運営致しますので宜しくお願い致します。）

会長 村垣 孝

副会長 塚原 辰二

副会長 岩本 美和子

会計監査 宮原 万里子

渉外 長野 和郎

ホームページ 櫻井 成孝

## 当会の活動状況

### ① 関西地区会員様訪問記録

日時：平成二十五年十月五日（土）

メンバー：村垣孝会長、岩本美和子、宮原万里子、塚原辰二、村垣正澄、平石慶子（敬称略）

午前十一時三十分分に新大阪駅西出口に全員集合する。

まずは、新大阪駅に隣接するホテルラフォーレ新大阪で軽食を取りながら本日の行動の確認を行った。

十二時三十分新大阪を出発し、地下鉄御堂筋線で難波に移動し、南海電鉄難波駅から河内長野駅まで行く。ここからタクシーに乗りし二十分弱で訪問先「楠妣庵 観音寺」に到着した。

このお寺は楠正成の正室が祭られている由緒あるお寺で現天皇陛下も皇太子の時にお見えになっています。

加藤宗和您住職から加藤家の当寺との係わりの経緯並びに加藤素毛氏の交友録の披露がありました。

お話の後加藤素毛氏が米国から持ち帰った品々を展示している展示室を見学した。

特に興味深いものは当時の米国旗、ランプ、鍵、ウィラードホテルのメニュー、関連記事が掲載されている当時の新聞を裏打ちして巻物で保管されているもの等など非常に興味深い貴重な品々を拝見し一同感銘を受けた。

加藤ご住職に別れを告げて、大阪に戻り総会に出てこられていない会員様との懇親会を開催した。（場所：梅田グランドビル「いくお」）

佐野行俊・いく子ご夫妻と伊藤とも氏の三名との懇親会となった。

佐野様は宝石のデザイナーとして活躍されており、佐野鼎氏が開成学園の創始者となった経緯などの説明がなされました。（文責・塚原辰二）

楠妣庵 観音寺にて



## ② 横浜幕末史跡訪問

日時：平成二十五年十一月二十六日

メンバー：岩本美和子、宮原万里子、長野和郎、小林賢吾（特別会員）（敬称略）

午前中は、横浜開港資料館を訪問してポーハタン号の模型やトミーポルカの楽譜展示を見学した。昼食後は、宮原万里子さんのお父上のご自宅付近にある神奈川奉行所跡にある石碑と掃部山公園に設置されている井伊掃部頭（いいかもんのかみ）の銅像を見学した。いずれも JR 桜木町駅から徒歩十分の距離にある）

引き続き JR 東神奈川駅に向かい、万延元年に竣工した神奈川台場址を視察した。同台場は、松山藩が幕府より神奈川付近の沿岸警備を命じられていた関係上横浜港開港に伴い勝海舟に神奈川台場の設計を依頼したが、実際には勝海舟の門下生である杵築藩士の佐藤恒三（遣米使節に参加）が苦勞して設計したとのこと。

神奈川台場の周囲は、大半部分が埋立てられていて 今日では、台場の石垣部を視察可能な場所は限定されている。因みに、同台場では幕末期において外国各国領事が横浜港へ来航された際の礼砲としての役割のみで、実弾が発射されたことはなかった。



横浜開港資料館にて

神奈川奉行所跡の石碑前にて



当日の夜は、浮月楼の宴会場にて徳川家臣団の子孫が集まり懇親会が開催され、静岡の地元の商工会議所の幹部の方々や郷土史研究会「静岡文化クラブ」の石川たか子様他多数の方々と懇談や名刺交換することが出来た。



### ③「平成の徳川家臣団大会イン駿河」に参加

静岡訪問日時：平成二十六年四月十六日

平成二十七年の「徳川家康公顕彰四百年記念事業」の一環として、静岡市民文化会館で四月十六日、「平成の徳川家臣団大会イン駿河」が開催された。当会からは村垣会長他幹事及び当会員十名が参加した。

#### 「産経新聞記事抜粋」

ご先祖さまと似た道を歩む人も。万延元（1860）年に日米修好通商条約の批准書交換のため、幕府が初めて派遣した遣米使節団。その副使、村垣淡路守範正の子孫の村垣孝さん（73）は、通産省入省を経て世界銀行に定年まで勤務し、現在は米メリーランド州に在住。「日米関係の礎を築いたご先祖さまと通じるものがあるのかな」と祖先と自分を重ね合わせた。



第三回総会・講演会・懇親会の写真



日米協会会長、前駐米特命全権大使  
藤崎 一郎 様 からのご挨拶



村垣会長の開会挨拶



日米協会会長から村垣会長へ贈呈されたメダル

植松 三十里 様 の講演会



新見 正裕 様 から柳原白蓮の母(奥津りょう)の古写真新発見に関する大変ホットなお話を戴きました。ちなみに、りょうさんは遣米使節正使の新見豊前守正興の娘さんです。





司会役の 柳原 三佳 様



新会員の皆様

小花和 平一郎 様      尾上 満昭 様



日高 廣 様

佐野 祐一 様



佐野 良彦 様



参加者全員の集合写真



## ご 来 賓

開陽丸子孫の会会長

榎本 隆充 様 のご挨拶



### 榎本 隆充 様 のプロフィール

1935年榎本武揚の曾孫として東京に生まれる。1989年梁川会会長。2001年東京農業大学客員教授。2007年海陽丸子孫の会会長。2008年武蔵野大学特別講師。現在、地方自治体、大学、歴史研究会等の講師として活動中。主な著作、「近代日本の万能人『榎本武揚』」(藤原書店) 編著、「榎本武揚未公開書簡集」、「北海道不思議辞典」、「榎本武揚の妻多津」(新人物往来社) など。

## 新特別会員

幕末史研究会会長 小美濃 清明 様から中締めのご挨拶



### 小美濃 清明 様 のプロフィール

昭和18年(1943)、東京生まれ。吉川賢太郎氏に師事し刀剣史を研究する。宮地佐一郎氏に師事し坂本龍馬、土佐史を研究。歴史研究家。全国龍馬社中副会長。幕末史研究会会長。著書に『坂本龍馬と刀剣』、『坂本龍馬・青春時代』、『坂本龍馬と竹島開拓』、『龍馬八十八話』。共著に『坂本龍馬事典』など。



## 初回発行にあたって

万延元年遣米使節子孫の会幹事事務局では、皆様方への「ポーハタン号便り」を今後年間三部発行ベースにして、新事実や資料他が発見され次第「号外」の発行も検討していきたいと思っておりますので宜しくお願い申し上げます。

皆様からの当会への御要望、御意見他何なりとお申し出お願い致します。  
幹事一同お待ち申し上げます。

尚、当会のホームページにつきましては、現在  
リニューアル準備中ですのでしばらくお待ち願います。  
(編集 長野和郎)

## 万延元年遣米使節子孫の会 会報